

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年5月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3990600029		
法人名	社会福祉法人 香南会		
事業所名	グループホーム やまざくらの里		
所在地	高知県須崎市安和中ノ川内693		
自己評価作成日	平成23年3月4日	評価結果 市町村受理日	平成23年5月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

民家や田畑に囲まれた静かな環境の中で、ホームの理念である「ほほえみ、支え合い、安らいだ生活を共に」を念頭に、入居者と職員が楽しみながら散歩や家事等を一緒にしている。また、音楽療法士、ボランティア(合唱、園児、小学生等)の方々の受け入れを積極的に行い、外出が難しい入居者の外部との接触が持てるよう支援している。ホームでは、低所得者と重度の要介護者の受け入れを積極的に行っており、地域福祉に貢献できるよう努めている。また、グループホームでの生活が困難になった場合は、希望に沿って法人内の介護保険施設等のサービスが利用できるようフォローアップ体制を整備している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.pippikochi.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3990600029&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成23年3月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、静かな環境に囲まれた里山に立地している。管理者は職員の育成に力を入れており、利用者主体、利用者と同じ目線での対応を大切にされた支援に取り組んでいる。重度の利用者も積極的に受け入れており、全員が外出できるように、一人ひとり順番に工夫しながら支援をしている。元気で農業経験のある利用者は、敷地内の畑で野菜を栽培し、食材に利用している。また、保育園児や小学校の児童との触れ合いや歌や踊りのボランティアとの交流、地域住民と散歩時に挨拶を交わしたり、野菜のお裾分けがあるなど、地域に溶け込んでいる。

自己評価および外部評価結果

ユニット名: ユニット共通

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間での事業所理念の共有については、採用時に説明を行い、理解してもらっている。また、職員会を通じて定期的に確認し合い、実践で活かせるよう取り組んでいる。	職員会やカンファレンスの際に理念を振り返り、職員の意識づけを行い、利用者に安心して生活を送ってもらうために、自分でできることを大切に支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも加入しており、広報誌を配布してもらうなど日常的に交流している。また、散歩等を通して地域住民の方々との馴染みの関係もできている。	地区会に加入している。地域の敬老会に参加したり、保育園や小学校の行事に招待されたりしている。近隣とのつきあいは野菜を持参してくれたりボランティアの訪問があり、散歩時には住民と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区会に参加した際に、ホームの入居者の生活の様子等を話し、認知症を理解してもらうように努めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区の民生委員、自治会長にも参加してもらい、2カ月に1回の運営推進会議を開催している。前回の会議での検討事項等については、結果を書面にて報告している。	会議では事業所からの報告や参加委員からの意見、要望が出され双方向的な会議となっている。会議での議事録は閲覧できるようにしている。外部評価結果の報告については記録がない。	評価結果や目標達成計画について会議に報告するとともに、対応の経過等も報告して、運営に活かしていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が主催するケア会議や相談員との意見交換会、グループホーム連絡会等に可能な限り参加しており、協力関係を築くことができている。	地域包括支援センターや担当課に実情の報告をしたり、相談したりして助言をもらっている。市主催のケア会議やグループホーム管理者会議などにも出席して情報や意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について職員が十分に理解ができるよう研修や勉強会にできる限り参加している。身体拘束をしないケアを実践している。日中も施錠せずに開放的な生活援助を行っている。	身体拘束に関する研修会に参加し、伝達講習を行い、職員の理解を深めている。外出傾向のある利用者を把握しており、外出した際はさりげなく後からついていくなど見守っている。鍵をかけないことによるリスクについて家族に説明している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で虐待防止に取り組んでおり、勉強会や職員会等を活用し、虐待についての知識を深め、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の勉強会等へ参加し、制度を理解し、内部でも職員会等を活用し知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に沿った説明を行い、十分に理解、納得のうえで、契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の定期的な訪問があり、入居者と面談している。家族からの率直な意見等は家族会で出してもらい、意見や要望については職員会で話し合い、運営に反映させている。	家族会は年3回、行事に合わせて開催している。家族からの要望等については職員間で共有し、必要に応じて法人にも報告しながら運営に反映させている。なお、家族会では家族だけの話し合いはしていない。苦情相談員の相談記録もない。	家族会では家族のみで話し合う機会を設け、忌憚のない意見等を出してもらうよう工夫するとともに、苦情相談員からの報告や対応等の経過も記録しておくことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会で職員の意見や提案を聞いている。出された意見等については、法人にも報告し運営に反映させている。	職員会のほか日常的に職員の意見や提案を聞く機会がある。内容に応じて法人にも報告し、運営に反映させている。利用者の入退居についても職員と相談しながら対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表を基に職員と面談し、個々の能力に応じた指導や能力開発に努めている。また、研修の情報等についても職員間で共有し、お互いに知識を深めていくようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の人事教育部を中心に、研修会や勉強会を行っている。また、外部研修についても積極的な参加を呼びかけ、伝達講習で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとの交流や地域の関係事業所同士の会議には積極的に参加し、情報交換を行うことで、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず面接を行い、心身の状態の把握やご本人の思いを受容するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ずご家族と面談し、入居者のこれまでの生活歴や入居申し込みに至る経緯を傾聴し、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な入居相談を受けた際は、法人内外とも連絡をとり、できる限りの対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の言動や行動からその時の思いを探り、根本にある喜びや不安等を知ること努め、共に暮らす者同士の関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡にて、本人の日頃の状態等を報告し、情報を共有することで、本人を支えていくための協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通い慣れた美容院へ行ったり、買物時に知人に会い交流するなど、関係を継続している。	馴染みの美容院に職員が送迎したり、量販店で知人に会ったりしている。ドライブがてら以前に住んでいた家を見に行っている。また、家族の協力を得て墓参りに行くなど、これまでの関係を継続する支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係について、職員間で情報交換し関係が円滑になるように働きかけている。心身の状態や気分で感情が変化することもあるため、常に注意し見守りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、気軽にホームを訪問してもらうよう声をかけ、いつでも相談に応じるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の言動や行動、会話を通して、希望、意向の把握ができるよう努めている。	利用者のフェースシートにより生活歴等を共有し、日々の生活の中で会話や行動、表情などから、その思いや希望を把握している。困難な場合は家族からの情報を参考に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人とのコミュニケーションを通して、生活歴の把握に努めている。また、家族や知人等の訪問時に、これまでの生活環境などの情報を聞くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活リズムを理解し、日々の些細な変化も見逃さないよう支援している。また、本人ができることを見出せるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員でカンファレンスを実施し、入居者個々の現状に即した介護計画を作成している。	利用者、家族の意向や職員の気づき等から計画作成者が計画したプランを職員と話し合っている。アセスメントやモニタリングを3カ月、6カ月毎に行い、計画を見直している。入居初期や状態変化時には随時カンファレンスを行い、見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に食事、排泄、水分、服薬、身体状況等、日々の暮らしの様子を記録している。また、職員の情報共有は、申し送りノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院等の必要な支援は柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加しており、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医や入居前のかかりつけ医での医療を受けられるように支援している。	利用者、家族が希望する医療機関には家族の同行を基本としているが、緊急時には職員が対応している。協力医療機関や他科の病院での受診は主に職員が付き添っている。受診結果は同伴した家族や職員から情報を得て、申し送り簿で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人の看護師と医療連携をとっており、24時間連絡できる体制にあり、相談、指示を受けられる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院のソーシャルワーカーや家族との連絡を密にとり、できる限り早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際の指針を定めており、入居時には本人、家族に説明している。また、かかりつけ医との連絡も密にとれている。	重度化や終末期の対応について、指針に沿って契約時に説明し、家族の同意を得ている。利用者の状態に応じて家族、主治医と話し合い、方針を共有して支援していくようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地元消防署の協力を得て、救命救急法等の学習や訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所の各棟に防災無線を設置している。消防署の協力を得て、通報、避難、消火訓練を行っている。	定期的に年2回、消防署の協力を得て防災訓練をしているが、近隣住民の参加は得られていない。非常用の飲料水は準備している。	災害時には地域の協力は欠かせないので、地域資源を把握しながら、日頃の防災訓練への協力を働きかけ、災害時の協力体制を築いていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、日々入居者と同じ空間で過ごし、入居者の状況を把握するように努めている。また、入居者のプライバシーやプライドを傷つけないように対応することを徹底している。	排泄誘導時の声かけの声が大きくならないように耳元で話すなど、誇りやプライバシーの確保に配慮している。個人情報の扱いも職員に徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者との会話を通して、自己決定してもらうよう場面づくりを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の関わりを通じて、本人との会話や行動、表情から気持ちを読み取り、本人の生活リズムや希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせて支援できるよう心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は法人本部の管理栄養士が立てたものを使用し、調理や後片付けは入居者と共に行っている。ゆっくりと食事ができるよう心がけている。	法人の管理栄養士が立てた献立に基づき、食材も届けられている。調理の下ごしらえや、片づけなど、利用者のできることを職員と一緒にしている。食欲不振の時などにはゼリー類などの捕食もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた食事を提供し、わかりやすいチェック表で食事や水分の摂取状態を把握している。摂取量が少ない方には摂取しやすいものを準備するなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にケアを行うようにしており、できる方は声かけや見守りを行い、ケアが不十分な方には援助し、嚥下障害による肺炎の防止にも努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレで気持ちよく排泄できるよう、個々に合わせた声かけや誘導を行っている。	排泄チェック表からパターンを把握して、できるだけトイレで排泄するよう誘導している。個々に応じてパッドを使用したり、夜間はポータブルトイレを利用するなど、排泄の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂取することや、身体を動かすことで排便を促している。それでも便秘傾向の方には、個々に合わせて下剤を併用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の状況から個々の希望やタイミングに合わせての入浴は難しいが、本人の身体状況を確認し、毎日の入浴を楽しむことができるよう支援している。	2ユニットの日替わりで浴槽を準備し、毎日入浴している利用者もいるが、概ね1日置きに入浴できている。入浴を拒否する利用者には無理強いをせず、下着の交換や汚染時にはシャワー浴をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できる限り日中の活動を促し、生活リズムを整えるように支援している。その日の体調や表情を見極め、その状況に応じた対応に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルし、入居者の服用中の薬を確認できるようにしている。また、薬が変更された時は申し送りノートに記載し、変更内容を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のできることや好きな作業を見つけ出し、季節の山菜の皮剥きや干し柿づくりなど、入居者の経験や知恵を発揮できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的に散歩に出かけたり、入居者の意見も聞きながら、季節毎にドライブに出かけたりしている。また、家族の協力のもとで花見などにも出かけるようにしている。	天候にもよるが事業所周辺を車椅子の利用者と一緒に散歩している。歩行困難な利用者は庭に出て気分転換している。近くの量販店への買物やドライブにはよく出かけている。季節毎には花見や行楽に出かけ、家族の参加も得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事業所が管理しているが、買い物や外出時には、本人が直接支払いができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、直接家族に電話をかけて、会話をしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じてもらうような花を活けたり、お茶の時間には、心地よい音楽を流したり、入居者と一緒に作成した壁飾りなどの作品を飾ったり、家庭的な雰囲気づくりに配慮している。	玄関には花を活け、壁には桜の花の創作品や折り紙の雛飾りなどを貼り、季節感を採り入れている。また、食卓やソファでゆっくりくつろげる共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にベンチを置き、常時、花を活ける等、居心地の良い空間を作るようにしている。また、食堂にソファを置き、気の合う者同士でくつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れた物を持参してもらおうよう家族に依頼し、安心して暮らせる雰囲気づくりに工夫している。	居室には利用者が使い慣れたタンス等を持ち込み、仏壇や家族写真を置くなど、これまでの生活が継続でき、それぞれ個性のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりのわかる力を見極めて、不安や混乱を招かない環境等について検討し、必要な目印をつけたり、物の配置に配慮したりしている。		

ユニット名:

ユニット共通

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない